

土砂災害警戒区域・特別警戒区域

土砂災害警戒区域(イエローゾーン)

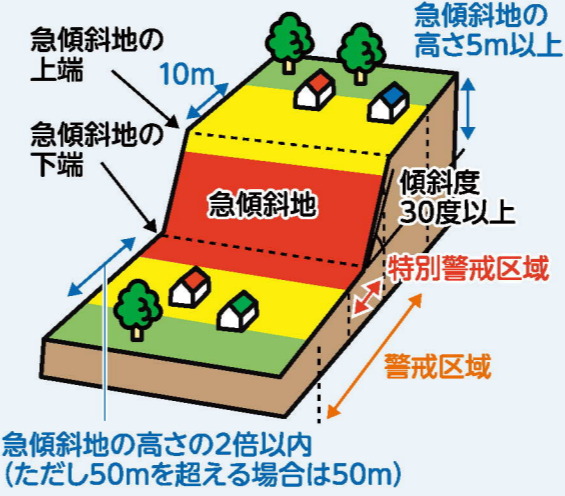
がけ崩れ等の土砂災害が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)

がけ崩れ等の土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域で、特定の開発行為の制限、建築物の構造規制等が行われます。

急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)

斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然崩れ落ちる現象です。

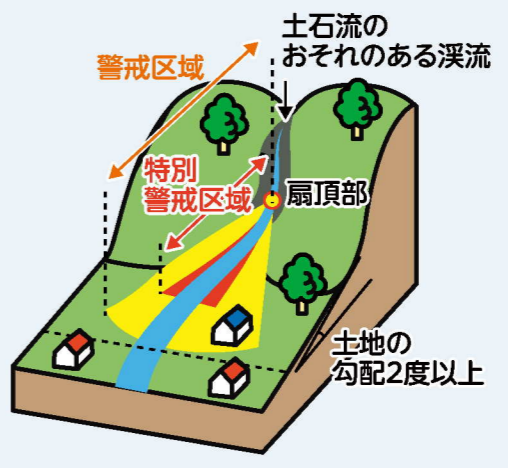


前兆現象

- がけに割れ目が見える
- がけから水が噴出する
- がけから小石がパラパラ落ちてくる

土石流

山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨等によって、一気に下流へと押し流される現象です。

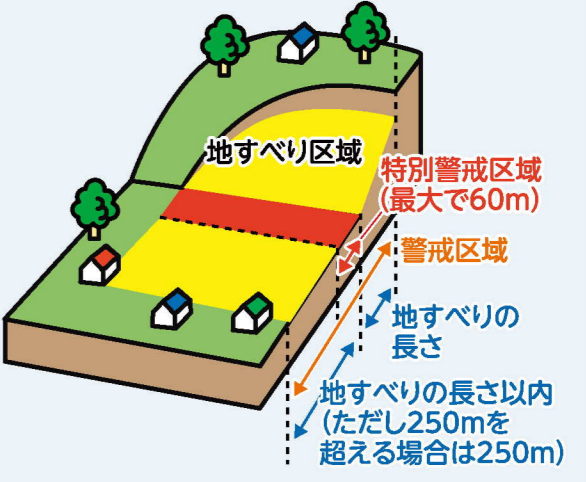


前兆現象

- 山鳴りがする
- 川の流れが濁り、流木が混ざりはじめる
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる

地すべり

斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によって斜面下方に移動する現象です。



前兆現象

- 地面にひび割れができる
- 沢や井戸の水が濁る
- 斜面から水が噴き出す

土砂災害警戒情報【警戒レベル4相当情報】

土砂災害警戒情報は、大雨警報(土砂災害)の発表中に、土砂災害発生危険度が高まったとき、熊本県と熊本地方気象台が共同で発表する情報です。

土砂災害警戒情報は、市長が避難指示を発令する際の判断材料となる重要な情報です。土砂災害警戒情報が発表されたら、土砂災害に厳重に警戒し、すみやかに避難してください。また、土砂災害警戒情報が発表されていなくても、地形や地質の条件により土砂災害が発生するおそれがあります。その他の防災情報や土砂災害の前兆現象などにも十分注意し、身の危険を感じたらすぐに避難してください。

避難のポイント(土砂災害)

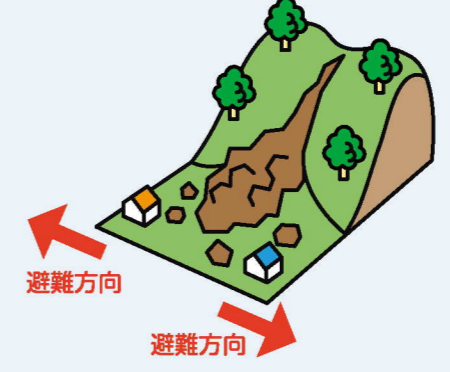
がけ崩れのおそれがある場合

一般的に、がけ崩れの土砂は、地面が平らなところはがけの高さの2倍の距離までくるといわれています。避難する場合は、がけからできるだけ遠くまで逃げてください。



土石流のおそれがある場合

溪流沿いの低い土地から離れてください。土石流のスピードはとても速いので、土石流を見たら、流れに直角の方向に逃げましょう。



屋外に避難する場合

避難する際は、土砂災害警戒区域等(イエローゾーン・レッドゾーン)をなるべく通らないようにしましょう。ハザードマップで区域を確認してください。

やむをえず屋外に避難できない場合

屋外に出ることがかえって危険な場合は、2階以上の斜面から離れた部屋で安全を確保してください。

雨がやんだ後も注意

これまで降った雨が土に残っています。雨がやんでも土砂災害が発生するおそれがあるので注意しましょう。

災害について【洪水・土砂災害】

氾濫の種類

外水氾濫



大雨によって河川の水位が高くなると、堤防を越えて水があふれたり、堤防が壊れたり(決壊、破堤)することがあります。このようなことが原因で生じる氾濫のことを「外水氾濫」といいます。

内水氾濫



平地に降った雨は、水路などを通じて河川に放出されます。しかし、ゲリラ豪雨のような雨が降ると、水路の排水能力が追いつかなかったり、河川の水位が上昇して排出できないことがあります。このように、地域に降った雨が河川にたどり着く前にあふれる状態のことを「内水氾濫」といいます。

雨の降り方と強さ

1時間雨量	10~20mm	20~30mm	30~50mm	50~80mm	80mm以上	110mm
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨	記録的短時間大雨情報
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る	息苦しくなるような圧迫感がある降り方	数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨(気象台が発表)
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる	傘は全く役に立たなくなる			特に、土砂災害警戒区域や浸水想定区域にお住まいの方は、避難情報を確認し、早めに避難行動をとってください。
屋内(木造住宅を想定)の様子	雨の音で話し声が良く聞き取れない		寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようなになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる		

※今いる場所で雨が降ってなくても、周辺や山間部で大雨が降っていたり、雷鳴が聞こえたりした場合は、急な河川の増水や局地的な大雨が降るおそれがあるため、気象情報をよく確認してください。

河川水位と住民に求める行動

潤川、網津川、緑川の基準水位

堤防高を越える	潤川(潤川)	網津川(網津川)	緑川(城南)
氾濫危険水位	2.28m	2.46m	6.20m
避難判断水位	2.16m	2.15m	5.80m
氾濫注意水位	2.16m	2.15m	4.30m
水防団待機水位	1.96m	1.60m	3.30m

ふだんの水位

※浸水想定区域にお住まいの方は特に市からの情報に注意してください。

氾濫危険水位…洪水・氾濫等により重大な災害が起るおそれがある水位

避難判断水位…避難情報の発令判断や市民が避難行動を行う目安となる水位

氾濫注意水位…河川の氾濫の発生を注意する水位

水防団待機水位…水防団が待機する目安となる水位

避難のポイント(洪水)

運動靴で避難

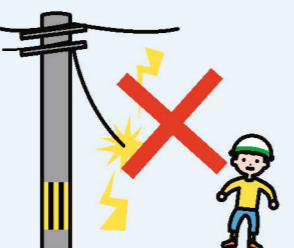


長靴は水が入って歩きにくく危険です。裸足やスリッパも危険です。運動靴をはきましょう。

これは危険!

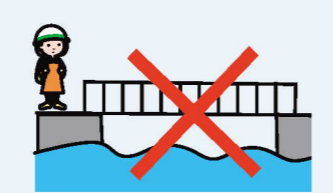


大雨時の田んぼの見回りはやめましょう。



たれ下がった電線には近づいたり、触ったりしないようにしましょう。

移動するときの注意点



橋を渡らないようにしましょう。



足元が見えないことが多いので、よく通っている道でも道路の真ん中を杖でつきながら慎重に歩きましょう。

災害について【地震】

地震発生時のタイムライン

地震発生

まずは自分の身を守る

- 机の下に入る。
- クッションや雑誌などで頭を保護する。
- 家具やガラス面から離れる。

緊急地震速報

地震発生後、大きな揺れが来る数秒～数十秒前にテレビ・ラジオ・携帯電話などから警報を発表するシステムです。震源に近い地域は、緊急地震速報が強い揺れに間に合わない場合があります。



こんなときは

人が大勢いる施設では
むやみに移動すると混乱をまねくおそれがあるため、係員の指示に従い、落ち着いて行動。

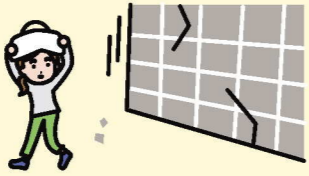
山やがけ付近では
落石やがけ崩れに注意。



路上にいた!

窓ガラスや瓦などの落下物からカバンなどで頭を保護し、空き地や公園などに避難する。

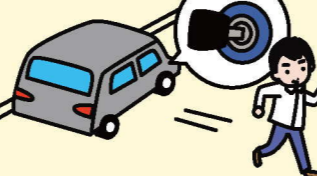
注意 ブロック塀、自動販売機には近づかない。倒れそうな電柱、垂れ下がった電線に注意する。



車を運転していた!

徐々にスピードを落とし、左側に止め、エンジンを切る。揺れがおさまるまで冷静に待つ。

注意 避難するときはキーは付けたまま、ドアロックもしない。貴重品を持ち出し、徒歩で避難する。



エレベーターの中にいた!

すべての階のボタンを押して、停止した階で降りる。

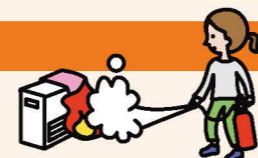
注意 閉じ込められても無理に脱出しようとせず、非常ボタンで外部と連絡をとり救出を待つ。



発生から1~2分

揺れがおさまったらまず火の始末

- 脱出口を確保する。
- 火元を確認する。
- 家族の安全を確保する。
- 靴をはく。



発生から3分

隣近所の安全確認・火災の発生を防ぐ

- 隣近所に声をかける。
- 余震に注意。
- 非常持出品を用意する。
- 近所に火が出ていたら初期消火。



発生から5分

ラジオなどで正しい情報入手

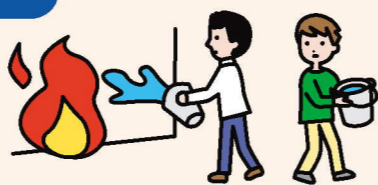
- 正しい情報をつかむ。
- 電話は緊急連絡を優先。
- 家屋倒壊などの危険があれば避難。



発生から10分~

協力して消火・救出・救護活動

- 助け合いの心が大切。
- 水・食料は蓄えているもので。
- 壊れた家には入らない。
- 災害情報・被害情報の収集を行い、デマ情報にまどわされない。



地震の揺れと想定される被害

震度6弱

- 立っていることが困難になる。
- 窓ガラスが破損、落下することがある。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。
- 耐震性の低い木造建物は傾いたり、倒れることがある。

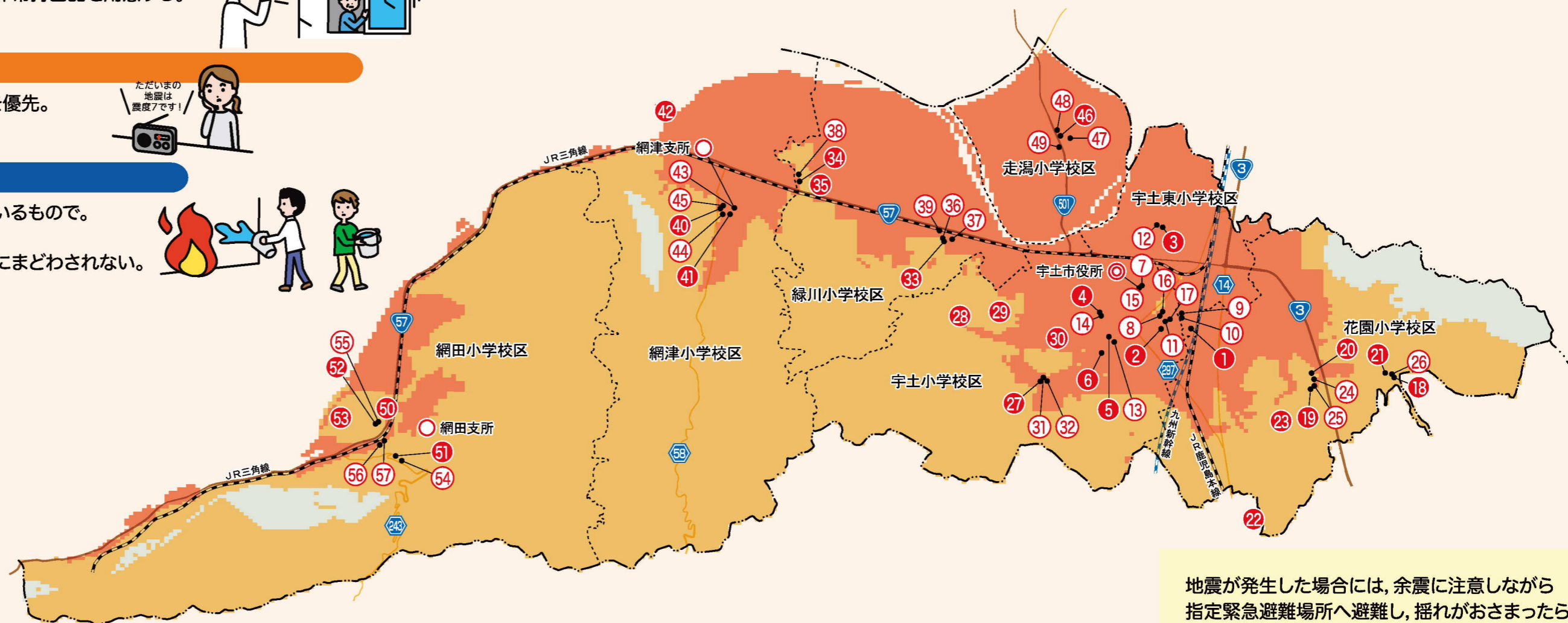
震度6強

- はわないと動くことができない。飛ばされることがある。
- 大きな地割れが生じたり、がけ崩れが多発し、大規模な地すべりや山全体の崩壊が発生することがある。
- 広い地域でガス、水道、電気の供給が停止することがある。

震度7

- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリートの建物では、倒れるものが多い。

※出典:「震度と揺れ等の状況(概要)(平成21年3月)」気象庁



地震が発生した場合には、余震に注意しながら指定緊急避難場所へ避難し、揺れがおさまったら指定避難所へ避難しましょう。

地震ハザードマップ(揺れやすさマップ)

「揺れやすさマップ」とは、地形や地盤の状況をモデル化し、想定される震源との位置関係とあわせて、地点ごとの震度を計算した結果を表示したものです。計算は、約50m四方の「メッシュ」単位で行っています。宇土市では、布田川断層帯(宇土区間:宇土断層M7.0)で地震が発生した場合と、どこでも発生する可能性のあるM6.9の直下型地震が発生した場合の最大の揺れを重ね合わせて、市内で想定される最大の揺れをマップに表示しています。

避難対象地区	No	避難所名	指定緊急避難場所	指定避難所
宇土	1	宇土市運動公園グラウンド	○	
	2	鶴城中学校グラウンド	○	
	3	宇土東小学校グラウンド	○	
	4	宇土小学校グラウンド	○	
	5	宇土高校グラウンド	○	
	6	城山公園	○	
	7	福祉センター		○
	8	市民会館		○
	9	ecowin宇土アリーナ(宇土市民体育館)		○
	10	市武道館		○
	11	鶴城中学校体育館		○
	12	宇土東小学校体育館		○
	13	宇土高校体育館		○
	14	宇土小学校体育館		○
	15	市立図書館		○
	16	中央公民館		○
	17	老人福祉センター		○
花園	18	立岡総合グラウンド	○	
	19	花園小学校グラウンド	○	
	20	花園幼稚園園庭	○	
	21	立岡自然公園	○	
	22	御領五区児童公園(宇城市)	○	
	23	五色山グラウンド	○	
	24	花園コミュニティセンター		○
	25	花園小学校体育館		○
	26	宇土市スポーツセンター		○
轟	27	轟地区グラウンド	○	
	28	飯塚防災広場	○	
	29	つつじヶ丘農村公園	○	
	30	宇土高校グラウンド	○	
	31	宇土高校第3グラウンド	○	
	32	宇土小学校グラウンド	○	
33	城山公園	○		

避難対象地区	No	避難所名	指定緊急避難場所	指定避難所
轟	31	轟公民館		○
	32	轟地区農業者トレーニングセンター		○
	33	宇土高校体育館		○
	34	宇土小学校体育館		○
	35	ecowin宇土アリーナ(宇土市民体育館)		○
緑川	36	緑川小学校グラウンド	○	
	37	住吉中学校グラウンド	○	
	38	緑川地区グラウンド	○	
	39	緑川小学校体育館		○
	40	緑川地区農業者トレーニングセンター		○
網津	41	住吉中学校体育館		○
	42	住吉神社		○
	43	網津防災センター		○
	44	住吉中学校体育館		○
	45	網津地区多目的研修会施設		○
走潟	46	走潟小学校グラウンド	○	
	47	走潟小学校体育館		○
	48	走潟地区体育館		○
	49	走潟公民館		○
	50	宇土東小学校体育館		○
網田	51	網田地区グラウンド	○	
	52	網田小学校グラウンド	○	
	53	網田中学校グラウンド	○	
	54	島山	○	
	55	網田小学校体育館		○
	56	網田中学校体育館		○
	57	網田地区農業者トレーニングセンター		○
58	西部老人福祉センター		○	

災害について【高潮・津波】

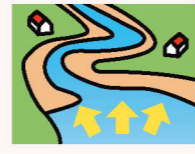
高潮の仕組みと危険な場所

①気圧低下による海面の吸い上げ

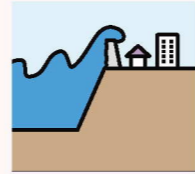
台風や低気圧の中心気圧は周辺より低いため、中心付近の空気が海面を吸い上げる結果、海面が上昇します。



湾の奥
押し寄せた海水が
たまり、湾内の水
位が上がる。



河口のまわり
高潮の被害と河
川の氾濫など、危
険が重なる。



急に深くなる
海底地形
押し寄せた波が海
岸の近くで一気
に高くなる。

②風による吹き寄せ

台風による強い風が海岸に向かって吹くと、海水は海岸に吹き寄せられて、海岸付近の海面が異常に上昇します。

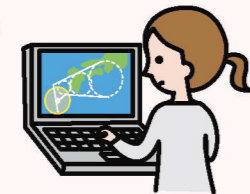
③波浪による海面上昇

大きな波が海岸に向かって絶え間なく押し寄せると、沖に急速に戻ることができず、岸に近い場所に多量の海水がたまるようになり、海面が上昇します。波が大きいほど、海面の上昇も大きくなります。

避難のポイント(高潮)

気象情報に注意しましょう。

台風接近の数日前から、気象情報や市からの防災情報に注意しましょう。



危険を感じたら早めに避難しましょう。

屋間に台風の強風域が近づいている場合や、夜間から明け方にかけて台風の強風域が最接近すると予想される場合は、市から早めの避難を呼びかけます。



海沿いへ様子を見に行くのはやめましょう。

高波にのみ込まれるおそれがあります。



ひとまず丈夫な高い建物などに避難

水深が膝の高さを超えたら、大人でも歩くのが困難になります。ひとまず近くの丈夫な高い建物などに避難しましょう。



津波の特徴

ジェット機並みの速さ

津波の速さは海が深いほど速く、津波が見えてからでは逃げ切ることができません。



想像以上の高さ

津波の高さは海岸の地形等で変わります。東日本大震災では、想像以上の津波が発生しました。



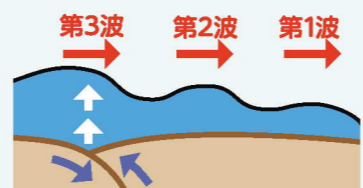
予兆もなく襲ってくる

必ずしも、津波の前に引き潮(予兆)があるとは限りません。



津波は繰り返す

津波は繰り返しくるので、警報や注意報が解除されるまで沿岸部に近づかないでください。



避難のポイント(津波)

小さな揺れでも油断禁物!

小さな揺れの地震でも、長い時間ゆっくりとした揺れの場合、津波が襲来することがあります。



高い場所へ避難する

海岸から「より遠くへ」ではなく、「より高い」場所へ避難しましょう。



海岸や川には近づかない!

海岸はもちろん、津波は陸地よりも先に川をさかのぼりますので、できるだけ川に近づかず避難しましょう。



率先避難者になりましょう

率先避難とは「緊急時に周囲へ避難を呼びかけつつ、自ら率先して避難すること」を言います。率先避難者になることで、それを見ている周囲の方に避難行動を取らせきっかけになります。



ポケットの中には、
東部地域版・西部地域版
の2種類が入っています。



その他、防災に関する資料などの保管に活用してください。

緊急時の連絡先		消防署…119	警察署…110	海上保安庁…118
連絡先	電話番号	連絡先	電話番号	
宇土市役所(代)	0964-22-1111	宇城警察署(代)	0964-33-0110	
宇土市役所建設部上下水道課	0964-22-6633	宇城広域連合消防本部(代)	0964-22-0554	
国土交通省・熊本河川国道事務所(代)	096-382-1111	九州電力(株)宇城営業所(宇城)	0120-761-386	
・緑川下流出張所	096-357-1797	NTT(電話サービスの故障)	113	
熊本県宇城地域振興局土木部	0964-32-5542			